

私は祖父母が長崎で被爆した被爆三世です。

当時 22 歳の祖母は爆心地から 1.5 キロ離れた所で仕事の最中に被爆しました。命は助かったものの機械の下敷きとなったため足が変形してしまいました。後に結婚して、5 人の子供をもうけました。しかしずっと体調はすぐれず、53 歳のときに胃ガンでなくなりました。

たった一つの爆弾によって多くの人々の幸せが奪われ、人生を狂わされました。被爆者であることを隠して生きた人もいます。また、家族や友人を失くし自分だけが生き残ってしまったとずっと自分を責め続けている方もいます。被爆者の方が受けた精神的な苦痛は計り知れません。その傷は 68 年たった今でも癒えることはありません。被爆当時は影響が見られなくても数十年後に突然病気が発症したという例があります。目に見えない放射能の影響は未だに解明されていません。そのことが被爆二世三世にも不安を与えています。自分もいつか病気になるのではないかと常に不安を抱えている方もいます。親から被爆者の子供であることを隠して生きろと言われて育った人もいます。

長崎の子供達は小学生の時から広島と長崎の原爆について学びます。二度とあやまちを犯してはいけないと教えられています。8 月 9 日は、夏休みですが、登校して平和学習します。学校によっては被爆者の方の被爆体験を聞くところもあります。そして 11 時 02 分にみんなで黙祷を捧げます。長崎中にサイレンが響き渡り祈りに包まれます。私は中学生の時に自分が被爆三世であることを知り、衝撃を受けました。祖父母がいなければ今の私はいません。そう思うと、地獄のような光景に絶望した中生き延びてくれてありがとうという気持ちが湧いてきます。でも生きのびて長崎と広島を復興させてくれました。そのたくましさに敬意を表したいと思います。そして無念にも原爆の犠牲となって亡くなった方々の死を無駄にしないためにも私には被爆の実相を伝える義務があると思いました。

高校生になってからは核兵器の廃絶と平和な世界の実現を目指す「高校生一万人署名活動」という活動に参加し、核兵器の廃絶を求めるための署名活動を行っています。私たちの活動は「微力だけど無力じゃない」をスローガンにして核兵器廃絶に取り組んでいます。今年 14 年目をむかえました。毎週日曜日には各地の街頭で署名を集めます。その署名は全国から選ばれた代表が高校生平和大使として毎年ジュネーブにある国連欧州本部へ届けています。この署名は国連で唯一公認されていて原爆資料と共に展示されています。これまで集められた署名は合計で 104 万 1679 筆になります。被爆者の願いはただ一つ、「二度と被爆者を生み出さない」ことです。核兵器の本当の恐ろしさは実際に被害にあった人にしかわかりません。その方たちの言葉の重み、平和への願いをしっかりと受け取り、核兵器の非人道性を世界に向けて訴えていくことが被爆三世である私の使命だと思っています。